

＜学生にとって分かりやすい実践的計量経済分析手法の教授法＞

研究期間 平成 28 年度

研究代表者名 後藤 正之

共同研究者名

I. はじめに

本研究は、「学生が計量分析専用ソフトを用いた実践的な分析手法を理解し自ら使いこなせることができるような教授方法を検討」することを目的としている。

なお研究費の執行に関しては、計量分析用のソフトウェア及び関連書籍購入及は予定通りであった。しかしながら、予定していた他大学や研究所の外部有識者へのインタビューに関しては、実践経済学科長としての学務のため出張のための日程が捻出できず、実施することができなかった（旅費が未執行）。

II. 研究内容

1. 計量経済分析用の専門ソフト（EViews 及び Stata）及びこれらのソフトの使用方法を解説する書籍を購入し、その使用方法に習熟した。
2. 上記ソフトを用いて、「基礎統計学」のテキストや「経済統計学」の授業で用いてきた図表やグラフを再構築し、学生にとってより理解しやすいマテリアルを作成した。
3. 本学における TOEIC・日経 TEST・前期数学入試・インターンシップ施行に係る受入先評価結果等の各種統計データを、上記ソフトを用いて統計的に分析した。
4. 上記ソフトを用いて、直近の各種経済指標を統計的に分析した。

III. 研究成果

1. 29 年度用の「基礎統計学」及び「経済統計学」の授業で用いる配布用資料を、本研究の成果を反映してブラッシュアップした。今後も継続的に改善を行なっていく。
2. 各種テストやアンケート等の分析結果を、執務の参考資料として、学長・副学長・学部長・学科長、教務グループ・学生グループに提供した。
3. 平成 28 年度長期研究計画「リスク・マネジメントの観点に立った、不確実な世界経済環境下における日本のマクロ経済政策のあり方」に沿って、個人ブログ（<http://sasebonosora.jugem.jp/>）を開設し、経済指標の分析結果を広く外部に発信している。

IV. おわりに

本学での統計学や経済統計学の授業を実際に体験したところ、統計学に対する基本的理解が不十分であり、また学生の個人 PC の所有状況や本学における PC 環境上の制約から、申請時に想定したような授業運営を直ぐに行うことは困難であることが判明した。

従って今後は、1 年次の「基礎統計学」において確実に基本的な理解が得られるような授業運営とそのためのマテリアルを作成することを優先して、本年度の成果を基に研究を継続して参りたい。その上で、ゼミを念頭に置いて、意欲のある学生が計量分析に取り組むことができるような教授法を確立していくこととしたい。

(以上)